令和８年 10 月 1 日

令和８年度　学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園　京都動物専門学校　学校関係者評価委員会は、「令和７年度 自己点検・評価報告書」に基づき、令和８年度の学校関係者評価を実施し、以下にこれを報告いたします。

開催日時：令和８年９月 16 日（水）10：30～12：00
場　　所：京都動物専門学校　1 号館 2 階 203 教室
参加委員：中嶋慶喜（ドッグサロン・レーヴ代表）
　　中本敦史（学校法人南京都学園法人本部企画室室長）
　　平尾克英（京都福祉専門学校校長・専門学校部留学生担当課長）
　　塩見　孔爾（学校法人南京都学園 学園長補佐／教育研究所所長）
教 職 員：木原茂弘（校長）、大塚浩也（副校長）、森谷航士（事務長/入試広報）
　　常石誠（グルーミング学科主任）、竹田明子（愛玩動物看護学科主任）、
　　中井澄子（進路主任）
欠　　席：吉田龍一郎（吉田家畜動物病院院長）

評価項目と学校関係者評価・意見

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1　学校運営	○教育理念・目標について ブランディングにより選ばれる学校を目標とする。 ○職業実践専門課程について 引き続き開催し、委員の意見を可能な限り反映させる。 ○学校関係者評価委員会について 専修学校における学校評価ガイドラインについて	入試制度改革の効果が表れはじめたが、良い面がある一方、改善するべき課題もでてきた。 第三者評価の状況・動向、および実施に関してのポイントを理解し動いていく。
2　教育活動 （カリキュラム編成）	○専修学校の単位制移行について 2026 年４月からの専修学校の単位制への移行に対応できた。 学校業務上、さまざまな変更・修正が必要となる。	現状、本校は学年によって時間制と単位制で動いていが、混同することなく業務に努める。

3　学修成果 （教育指導） （資格）	○資格について 愛玩動物看護師（国家試験）の合格は100%であった。平均点も全国的にも高い水準であった。 ○教育指導について 専門学校の特性上、年代・学歴・社会経験等によって、学生個々の能力に差が生じる。よって、カリキュラム履修国家試験の全員合格への指導は簡単な事ではない。	学力差については、個々の能力に合わせた指導を行っている。 また、入試制度改革で可能な限り、“差”が無い環境を整えるよう努める。
4　学生支援 （インターンシップ） （高等教育修学支援新制度）	○インターンシップについて グルーミング学科は、2年次に14日間のインターンシップを実施。 愛玩動物看護学科は、動物看護総合実習としての履修が必修である。 ○高等教育修学支援新制度について 令和9年度における更新確認申請は受理された。	インターンシップというものが、企業と学生の両者にメリットがあるのが理想である。インターンシップに対する学生への指導を、より一層考える必要がある。 対象校から外れると、学生への支援に影響もあるが、募集にも大きな影響が考えられる。対象校として支援を受けられる環境を整えることに努める。要件を満たすよう努める。
5　教育環境 （施設設備） （ICT活用）	・教職員及び学生用PCをMicrosoft365へ移行 ・超音波画像診断装置の購入	
6　学生の受入れ募集	○本校は「ブランディング」を基に、AO入試に選抜試験を導入し4年目となが、今年度の募集に関しては、グルーミング学科が伸びない。学科別で入試方法見直しの検討が必要である。 ○SNS等の活用をもっとするべきでは。 ○中学生対象の職業体験イベントを行ってはどうか。 ○内部進学生が増加しており、高校進学時から本校進学を見据えた中学生がいる。	本校はAO入試選抜試験によるブランディング化を目標としているが、課題も見えてきた。これに対し検討し改善する必要がある。 良いご意見なので、前向きに考えたい。 系列高校の募集活動にも活かしたい。学園全体に良い循環が生まれると考える。

7　社会貢献・地域貢献	学生が毎年グッズを製作し販売して得た利益で寄贈品を購入し京都動物愛護センターに寄贈する活動を今年度も実施できた。	イベントにもボランティア等で積極的に参加する予定ある。 人・地域・社会との繋がりを体現できる機会をつくる事を考える。

以上